



【1】 次の文は、「中学校学習指導要領（平成20年）第1章 総則 第1の3」の内容である。文中の 

1
---

 ～ 

4
---

 にあてはまる適切なものを①～⑧から選び、番号で答えよ。

学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに 

1
---

 の向上に関する指導、 

2
---

 に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、技術・家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や 

3
---

 との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて 

4
---

 で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

① 学力	② 体力	③ 口腔の衛生	④ 安全
⑤ 専門機関	⑥ 地域社会	⑦ 健康・安全	⑧ 健康

1	2	3	4
---	---	---	---

【2】 次の文は、「小学校学習指導要領解説（平成20年）体育編G保健（3）病気の予防」の内容である。適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。
- ② 喫煙を長い間続けると肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。
- ③ 飲酒については、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることを理解できるようにする。
- ④ 飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があることについても触れるようにする。
- ⑤ 低年齢からの喫煙や飲酒は特に害が大きいことについても取り扱うようにし、未成年の喫煙や飲酒は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙や飲酒を開始する可能性があることについても理解できるようにする。

5
---

【3】 次の、国の「がん対策推進基本計画」に関する記述のうち、下線部が適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① がんは、日本で昭和56年より死因の第1位であり、平成22年には、年間約35万人が亡くなり、生涯のうちに約2人に1人ががんにかかると推計されている。
- ② がん対策基本法が平成18年6月に成立し、これに基づき、がん対策を総合的かつ計画的に推進するための「がん対策推進基本計画」が平成19年6月に策定された。
- ③ 学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んでおり、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は十分に行われてきている。
- ④ 子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指す。
- ⑤ 国民に対しては、がん予防や早期発見につながる行動変容を促し、自分や身近な人ががんに罹患してもそれを正しく理解し、向かい合うため、がんの普及啓発活動をさらに進めることを目標とする。

6

【4】 次の記述は、「学校保健安全法」の抜粋である。文中の 7 ～ 9 にあてはまる適切なものを①～⑦から選び、番号で答えよ。

第一 条 この法律は、学校における児童生徒等及び職員の健康の保持増進を図るため、学校における 7 に関し必要な事項を定めるとともに、学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における安全管理に関し必要な事項を定め、もつて学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的とする。

第十九 条 8 は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

第二十 条 9 は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

- |          |        |        |       |
|----------|--------|--------|-------|
| ① 学校     | ② 健康管理 | ③ 校長   | ④ 学校医 |
| ⑤ 学校の設置者 | ⑥ 保健管理 | ⑦ 環境衛生 |       |

7

8

9

【5】 次の表は、水道水を水源とする飲料水の水質に係る学校環境衛生基準（平成21年）の検査項目と基準について述べたものである。□10～□14にあてはまる適切な検査項目を①～⑩から選び、番号で答えよ。

「水道水を水源とする飲料水（専門水道を除く。）の水質」より抜粋

検査項目	基準
□10	1 ml の検水で形成される集落数が100以下であること。
□11	検出されないこと。
□12	200mg/l 以下であること。
□13	5.8以上8.6以下であること。
□14	異常でないこと。

○この項は、貯水槽経由給水に当たる簡易専用水道及び小規模貯水槽水道等の水道水を水源とする飲料水の水質基準である。

○この検査項目は、安全な飲料水であることを確認する最低限必要な項目である。

○特定建築物に該当する校舎等を有する学校については、当該校舎等が、上記の検査項目及び検査回数とは別に建築物衛生法に基づく基準が適用されるので、併せて遵守する必要がある。

① 塩化物イオン	② 遊離残留塩素	③ 一般細菌	④ 臭気
⑤ 濁度	⑥ 大腸菌	⑦ pH値	
⑧ 全有機炭素	⑨ 色度	⑩ 過マンガン酸カリウム消費量	

10	11	12	13	14
----	----	----	----	----

【6】 次の血液についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 血液は、血管の中を循環する赤色の液体で、液性の血漿と有形成分から構成される。有形成分のほとんどは血球とよばれる細胞で、赤血球・白血球・血小板に大別される。
- ② 血球形成は、出生後はおもに骨髄でおこなわれ、1個の多能性造血幹細胞からすべての血球が分化する。
- ③ リンパ球は、大きさから大・中・小リンパ球に、機能から骨髄由来のBリンパ球と胸腺由来のTリンパ球に分けられる。
- ④ 好中球は免疫応答に直接関与し、抗原刺激を受けると形質芽細胞となり、抗体を産生する形質細胞に分化する。
- ⑤ 血小板には核はなく、刺激を受けると偽足を伸ばし相互に凝集し、止血を促進する。

15

【7】 次の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 糖質（炭水化物）、タンパク質、脂質（脂肪）などの栄養素は、肝臓内で様々な化学反応を受け、全身の細胞が利用できる分子に変換されて肝臓から血液中に放出され、一部は肝臓に貯蔵される。
- ② 成人の場合、腎臓には1分間に約1ℓの血液が流れ込み、それらは腎臓内でろ過されて1日に約150～180ℓものろ過液が作られる。そのうちの10%が尿として体外に排泄され、残り90%が腎臓内で再吸収されて血液中に戻される。
- ③ 呼吸は、肺でおこなわれる外呼吸と、全身の組織でおこなわれる内呼吸に分かれる。外呼吸では肺胞と毛細血管内の血液との間で、内呼吸では組織の細胞と毛細血管内の血液との間で、酸素と二酸化炭素の入れ換えがおこる。
- ④ 飲食物を飲み込むときは、軟口蓋が反射的に咽頭の後壁に接し、鼻腔や耳管へ飲食物が逆流するのを防ぐ。
- ⑤ 成人の場合、安静時には心臓は毎分75回ほど収縮・弛緩し、約5ℓの血液を拍出する。運動時にはその量は4～5倍に増加する。

16

【8】 次の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 髄膜炎は髄膜に発生する炎症性の病気で、細菌・ウイルス感染、化学刺激、悪性腫瘍などが原因で起こる。急性髄膜炎では激しい頭痛、発熱、悪寒がおもな症状で、小児ではしばしばけいれんを伴う。
- ② 過敏性腸症候群は、炎症や潰瘍などの器質的疾患がないのに大腸の機能が失調し、腸管の運動亢進、分泌亢進によって便通異常が現れる病気で、下痢型・便秘型・下痢便秘交代型がある。
- ③ I型糖尿病の治療にはインスリン注射が不可欠で、学校においてもこれらの注射が必要になる。治療中は低血糖による糖尿病性昏睡、高血糖による体調不良に気を付けなければならない。いずれも生命にかかわることであり、学校における対応も必要になる。
- ④ 甲状腺機能亢進症は、甲状腺ホルモンの分泌過剰によって引き起こされる自己免疫性の病気である。バセドウ病が代表的で、おもな症状は甲状腺の腫れ、多汗、疲れやすさ、手足の震えなどがあり、約半数の患者に眼球突出がみられる。
- ⑤ 気管支ぜん息は、アレルゲンと言われる炎症の原因となる外来抗原を吸入することで、気道に炎症を起こし、発作性にぜん鳴、咳、呼吸の延長を伴う呼吸困難を来す疾患である。

17

【9】 次の心疾患についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 先天性心疾患でもっとも多いのが心室中隔欠損症で、心房中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症等も多い。
- ② QT延長症候群は、遺伝性疾患で、心電図上QT時間や補正QT時間(QTc)が長く、突然、特有の心室頻拍や心室細動を来し失神や突然死したりする可能性のある疾患である。
- ③ 主な心筋疾患として、心筋症、心筋炎がある。児童生徒等の突然死では、この心筋疾患が原因である場合が少なくなく、注意すべき疾患である。
- ④ 心疾患を有する児童生徒等のうち不整脈の者の割合は高く、高学年になるにつれてその頻度は増す。
- ⑤ WPW症候群は、副伝導路を有する疾患で発作性上室頻拍を起こすことがあり、まれに心房細動合併による突然死を起こすことがある。発作がなくても嚴重な運動制限と薬物投与が必要である。

18

【10】 出血は見られないが、足関節に痛みを伴う外因性症状の応急処置として、適切でないものがいくつあるかを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① わずかな変形ではその側だけ見ていると見逃すおそれがあるので、必ず健側と比較してみる必要がある。
- ② 触診は、まず患部と思われる所に示指をもって軽く圧迫していく。
- ③ ショック症状が認められるときは、しばらく安静にしても症状が治まらなければ、医療機関に搬送する必要がある。
- ④ 視診及び触診で骨折の疑いが濃厚となれば、それだけでただちに骨折とみて処置を行ってよい。
- ⑤ 学校で副子を当てる際、変形が認められれば整復しながら固定する方式をとるのがよい。

① 1つ      ② 2つ      ③ 3つ      ④ 4つ      ⑤ 5つ

19

【11】 次の熱中症の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 皮膚血管の拡張と下肢への血液貯留のために血圧が低下、脳血流が減少して起こる症状は“熱疲労”に分類され、足を高くして寝かせる。
- ② 四肢や腹筋のけいれんと筋肉痛が起こる症状は“熱けいれん”に分類される。
- ③ 全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛などの症状が起こった場合は、0.2%食塩水、スポーツドリンクなどで水分、塩分を補給する。
- ④ “熱射病”は高体温と意識障害が特徴で、救急車を要請し、速やかに冷却処置を開始する。
- ⑤ 学校の管理下の熱中症死亡事故は、7割以上が肥満傾向の人である。

20

【12】 次の文は学校保健における保健指導や教育相談で活用できる教育の手法について述べたものである。適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 様々な社会的技能をトレーニングにより、育てる方法をソーシャルスキルトレーニングという。
- ② 自分の身体や心、命を守り、健康に生きるためのトレーニングをライフスキルトレーニングという。
- ③ 自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ方法をアンガーマネジメントという。
- ④ 対人場面で相手の伝えたいことをしっかり受け止めるためのトレーニングのことをアサーショントレーニングといい、「共感訓練」と訳される。
- ⑤ 児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童生徒同士が互いに支え合う関係を作るためのプログラムをピア・サポート活動という。

21

【13】 次の文は、健康相談の実施に当たっての留意点について述べたものである。適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 学校医・学校歯科医・学校薬剤師等の医療的見地から行う健康相談は、保護者から直接相談を受け、病気の診断をし、治療をすすめるとともに学校への支援を行う。
- ② 健康相談の実施について周知を図るとともに、児童生徒、保護者等が相談しやすい環境を整える。
- ③ 健康相談は学校保健計画に位置付けて実施するもので、状況に応じて計画的に行われるものと随時に行われるものがある。
- ④ 継続的な支援が必要な者については、校内組織及び必要に応じて関係機関と連携して実施する。
- ⑤ 相談場所は、相談者のプライバシーが守られるように十分配慮する。

22

【14】 次の学校生活管理指導表に関する記述を読んで、**23** ～ **25** にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

- (1) 心疾患・腎疾患の児童生徒を対象とした学校生活管理指導表は、学校の教科体育を **23** に分け、また、疾患の重症度により **24** に分け適切な生活指導が行うことができるように表示したものである。
- (2) アレルギー疾患用の学校生活管理指導表は、病型・治療、**25**、緊急時連絡先等の記載欄より構成される。

- |                             |                 |                     |
|-----------------------------|-----------------|---------------------|
| ① 学校生活上の留意点                 | ② 学校医の指示        | ③ A, B, C, D, Eの5段階 |
| ④ 軽い運動、中等度の運動、強い運動の3段階      | ⑤ A, B, Cの3段階   |                     |
| ⑥ 軽い運動、中等度の運動、強い運動、運動中止の4段階 | ⑦ 健康診断の結果       |                     |
| ⑧ 走、球技、表現、水泳、器械運動の5種目       | ⑨ 軽症、中等度、重症の3段階 |                     |

23

24

25

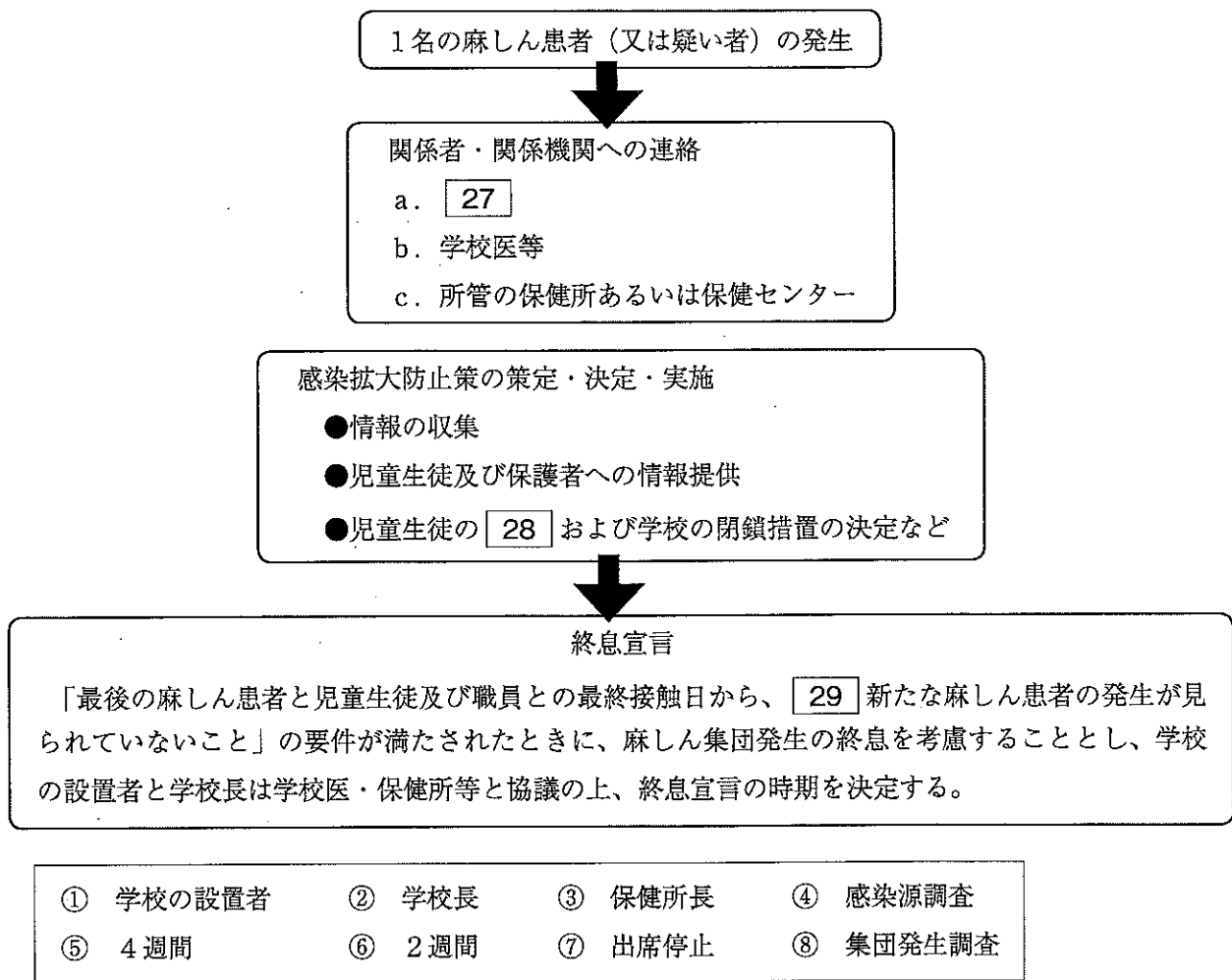


【15】 歯及び口腔の疾病及び異常の有無に関する健康診断の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 学校歯科医の指が児童生徒等の口に触れないように、ミラーを両手に持ち、2本のミラー（ダブルミラー）で検査することもあるので、十分な数を用意する。
- ② 歯周疾患要観察者GOは、歯肉に腫脹や軽い出血がみられる歯肉炎であり、ブラッシング指導等を適切に行い、観察を続ける必要がある者である。
- ③ むし歯は、視診にて歯質にう蝕病変と思われる実質欠損が認められる歯のことである。2次う蝕も含む。治療途中の歯もCとする。
- ④ 歯垢の付着状態について、ほとんど付着なし、歯面の1/2以下、歯面の1/2を超える、の3区分についてそれぞれ0、1、2で記入する。
- ⑤ 要観察歯COは、視診では明らかなう窩のあるむし歯と判定はできないが、むし歯の初期症状を疑わせる歯のことである。健全歯として扱う。

【16】勤務校の児童生徒が麻しんに感染したと連絡を受けた場合、学校はどのように対応すればよいか、

27 ～ 29 にあてはまる適切な語句を①～⑧から選び、番号で答えよ。



27	28	29
----	----	----

【17】 次の記述の  ～  に入る適切な数値を①～⑨から選び、番号で答えよ。

- (1) 脊柱は7個の頸椎と12個の胸椎、 個の腰椎、仙骨と尾骨から構成される。
- (2) 手の骨格は  個の手根骨、5個の中手骨、14個の指骨から構成される。
- (3) 鼻は顔面中央にある外鼻、眼窩と口腔の間の広い空間を占める鼻腔、鼻腔と交通する  つの副鼻腔で構成されている。

①	1	②	2	③	3	④	4	⑤	5
⑥	6	⑦	7	⑧	8	⑨	9		

<input type="text" value="30"/>	<input type="text" value="31"/>	<input type="text" value="32"/>
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

【18】 次の記述のうち、適切なものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 脳は髄膜（硬膜、くも膜、軟膜）に包まれて頭蓋腔に収容され、頭蓋によって保護されており、終脳、間脳、小脳、脳幹に区分される。
- ② 内耳の半規管（三半規管）は平衡感覚器で、頭部の傾きや水平・垂直の動きを感知する。
- ③ 咽頭筋は2層の横紋筋からなり、収縮と弛緩によって飲食物を下方に送る。
- ④ 眼球の内容物である眼房水は、水晶体の後方にある透明なゲル状物質で、硝子体とともに眼球の内圧を保ち、眼球の形を維持している。
- ⑤ 上腕と前腕の間にある肘関節は、尺骨と橈骨が作る複関節である。

【19】 次の事例を読んで、学校の対応として、適切でない内容の記述を①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

震災時、中学校2年生だった男子生徒は自宅で倒れた家具の下敷きとなり身動きがとれず、死ぬのではないかという強い恐怖を味わった。レスキュー隊に救出され、打撲があったが命には別状はなかった。

- ① 養護教諭は、学校医と相談の結果、校長の了解の下、男子生徒の保護者に対しては、スクールカウンセラーが支持的面接を行いながら、子供への対応の相談を行う方針とした。
- ② 養護教諭は、男子生徒の個別の支援計画の作成に参画した。
- ③ 児童精神科を受診したので、学級担任と養護教諭は保護者の了解を得て、主治医から生徒の状態について説明を受けた。
- ④ 男子生徒が中学校3年生に進級すると、もとの学級担任は新たな学級担任に申し送りをし、引き続き養護教諭と連携して男子生徒の健康観察に当たった。
- ⑤ 男子生徒はその後PTSDと診断され、治療を継続している。養護教諭はアニバーサリー反応が起きることもあることを、男子生徒の保護者には混乱を招くので伝えなかった。

【20】 次の文は、健康相談について述べたものである。適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 学校医の職務執行の準則は、学校保健安全法施行規則第二十二條に規定されており、学校医は、学校の環境衛生の維持及び改善に関し、学校薬剤師と協力して指導を行った。
- ② 学校保健安全法施行規則第二十二條の学校医の職務には、必要に応じ学校における保健管理に関する専門的事項に関する指導に従事することが規定されているので、学校医は、教職員に児童生徒等への対応について指導を行った。
- ③ 学校における健康観察は、学校保健安全法第二十九條に規定されており、朝の健康観察に加え、学校生活全般を通じて全教職員が健康観察シートを使って行った。
- ④ 学校保健安全法第十條には、地域の医療機関等との連携が規定されているので、学級担任等は、専門家の支援を必要とする児童生徒等には、学校医、スクールカウンセラーや医療機関等の専門家の協力を得て連携して支援に当たった。
- ⑤ 学校保健安全法第九條には、養護教諭その他の職員が、当該児童生徒等に保健指導を行い、保護者に対しては必要な助言を行うものと規定されているので、学級担任と養護教諭が児童生徒等や保護者に保健指導や健康相談を行った。

35

【21】 次の記述のうち、適切でないものはいくつあるかを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- (1) 腰椎分離（すべり症）は、成長期において、過度な腰椎伸展を繰り返し行うスポーツにより椎骨に力学的ストレスが加わって生じる疲労骨折で、腰椎下位、特に第5腰椎に生じることが多い。
- (2) オスグッド病は膝蓋骨の下方に疼痛と腫脹を生じる。発症は概ね10～14歳である。
- (3) 大腿骨頭すべり症は、小学校高学年～中学生期に、特に肥満型の男子に多くみられる。
- (4) ヘルテス病の発症は3～12歳頃であるが、最も頻度が高いのは4～8歳頃で、女子に多く見られる。
- (5) 脊柱側弯症は脊柱が何らかの原因により側方、かつ捻れを伴い湾曲した病態である。姿勢が悪い、重量物を持ち上げた、過激な運動をした、などの原因で生じることもある。

① 1つ    ② 2つ    ③ 3つ    ④ 4つ    ⑤ 5つ

36

【22】 次の事例を読んで、下の問いに答えよ。

バスケットボール部に所属する高校2年生の女子生徒Aさんが4月上旬、頭痛、立ちくらみの症状を訴えて何度か保健室に来室した。内科検診時、学校医に相談し診てもらったところ、学校医から貧血の疑いがあるとの指摘を受け受診を勧める家庭通知を行った。受診した結果「鉄欠乏性貧血」と診断された。

(1) 次の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 鉄欠乏性貧血とは、赤血球の中のヘモグロビンが減って赤血球の数が減るため、酸素の供給が十分にできない状態となり、集中力の低下や頭痛、食欲不振などの症状が起こることや治療方法について、学校医から助言を受けた。
- ② 3食バランスのとれた食事を摂取するとともに、毎日失われる鉄を食事からしっかり摂ることやたんぱく質・鉄の吸収を高めるビタミンCの摂取も大切であることをAさんに指導した。
- ③ 15歳～17歳女子に必要な1日のエネルギー摂取量は、身体活動が普通の場合、目安として2300kcal/日必要であることをAさんに指導した。
- ④ 学級担任、部活動顧問に貧血の原因について説明し、Aさんの食生活の改善ができるよう昼食時の観察の依頼と部活動での配慮事項を確認した。
- ⑤ Aさんから月経量が多いとの訴えがあったが、学級担任と部活動の顧問は男性のため、Aさんのプライバシーに配慮して、学級担任と部活動の顧問には訴えの内容を伝えなかった。

37

(2) 運動量に合わせたエネルギーを食事から補う必要があることを、養護教諭から次のように説明した。

38 に当てはまる適切な数字を①～⑤から選び、番号で答えよ。

体重50kgの人が縄跳び(60～70回/分)を行ったときの消費カロリーは、1分間あたり約8kcalである。約 38 分間縄跳びをすると、ごはん1杯分(140g)のエネルギーを消費することになる。

① 10      ② 20      ③ 30      ④ 40      ⑤ 50

38

【23】 次の記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 養護教諭の有する知識及び技能の専門性を教科指導に生かすことを目的に法的整備が行われ、ある一定の条件を満たした上で兼職発令を受けることにより保健の教科への参加が可能となった。「養護教諭」としてではなく、「教諭」又は「講師」として実施されるものである。
- ② 授業を終えた児童が帰宅途中、通学路にある階段を踏み外し転倒した際、右手首を骨折した。日本スポーツ振興センター災害共済給付の申請対象となることを保護者に連絡した。
- ③ 学習指導の場面において黒板に使用するチョークは赤、緑、青、茶色等の暗い色は避け、白と黄を主体に使用する。色の判別を要する表示や教材を用いる場合には、誰でも識別しやすい配色で構成し、色以外の情報も加える工夫が必要である。
- ④ 定期健康診断で滲出性中耳炎と判定された児童がいた。この児童は、教育扶助を受けている児童だったので学校病医療券を発行した。
- ⑤ 児童の発育を身長・体重成長曲線で検討し評価した。成長曲線基準図の中には上下7本の基準線があり、身長と体重の成長が正常であれば、成長曲線基準図の中の基準線に沿った成長をする。

- 【24】保健室経営計画の作成について次の事例を読み、次の記述のうち適切でないものがいくつあるかを①～⑤から選び、番号で答えよ。

A小学校の学校目標は「よく考え本気になって勉強する子・健康で粘り強くやり抜く子」である。学校保健目標を「生涯にわたり健康で安全な生活ができるように、必要な知識と習慣を身に付け、心身ともに健康でよりよく生きようとする子供を育てる。」とした。A小学校児童には、むし歯罹患率が高く治療率も低いという健康課題があるため、歯・口の健康づくりの充実を図る必要があった。

- (1) 学校保健活動の年間を見通して、学校保健目標を達成するため、「保健教育」「保健管理」「組織活動」の3領域について、養護教諭が中心となって総合的に保健室経営計画を立てた。
- (2) 学校の教育目標や学校保健目標などを受けて、保健室経営目標を「むし歯治療勧告の強化やチーム・ティーチングによる歯科保健指導等により、歯・口の健康づくりの充実を図る」とし、具体的な方策を決めた。
- (3) 保健室経営計画の評価は、養護教諭による自己評価と教職員等による他者評価の両方で評価することが保健室経営の改善、発展の鍵となる。それぞれの評価の到達度を4件法で評価する。
- (4) 保健室経営計画は単年度計画にせず、数年間で取り組むことができるようにした。具体的にはむし歯の治療勧告を毎学期行うことと、個別の保健指導を行い、進んで治療が受けられるようにする方策を立てた。
- (5) 保健室経営計画に含めるものとして、毎年大きく変化することがない健康観察の方法、保健室利用方法についても計画に含め、評価を受けた。

① 1つ    ② 2つ    ③ 3つ    ④ 4つ    ⑤ 5つ